

平成21年5月10日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006年度～2009年度
 課題番号：18530407
 研究課題名（和文）ことわざによる社会・文化の探究

研究課題名（英文）A Research of “Community Common Sense and Way of Life” by Proverbs

研究代表者

穴田 義孝 (ANADA YOSHIYUKI)
 明治大学・政治経済学部・教授
 研究者番号：00101387

研究分野：社会心理学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：郷土のことわざ、文化圏、社会意識、習俗規範、社会的性格、
 ことわざ創り調査法、「言の業」と「事の業」

1. 研究計画の概要

(1)これまで発掘されていない「郷土のことわざ蒐集調査」による地域ごとのことわざ蒐集、
 (2)その文字データ化、(3)さらにそれらの分析・考察、出版計画などが具体的な研究計画概要である。

2. 研究の進捗状況

(1)「郷土のことわざ蒐集調査」は、第1次全国調査を本年度で一応終わらせることができる。
 (2)「文字データ化」は、費用がかさみ60%位まで、データ化できると考える。しかし、出来上がった順に出版していくことも考慮している。
 (3)地域・文化圏の設定という分析作業は、途に就いたばかりである。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。
 全体的に70%位の達成度ではなからうか。しかし、新たに企画したい調査や分析していくべきデータも増えるばかりである。

4. 今後の研究の推進方策

一段落としての分析や考察、出版計画などを実行しなくてはならないが、さらに計画を深化したいものと考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

穴田義孝

“ことわざ社会心理学”の探究
 『明治大学社会科学研究所紀要』第46巻
 第2号、2008年3月、159頁から205頁

〔学会発表〕(計1件)

穴田義孝

「郷土のことわざ調査と資料蒐集運動」
 ことわざ学会、2008年7月

〔図書〕(計3件)

(1) 穴田義孝編著『ことわざDE社会心理学の探究－現代日本社会における常識という社会意識について考える－』文化書房博文社、2009年4月、全336頁

(2) 穴田論文「現代日本社会における常識とは何か、その持続可能性－ことわざ社会心理学の視点からの分析－」221頁～267頁・新田功編『日本人と持続可能な社会』文化書房博文社、2008年7月、全359頁

(3) 穴田義孝

『ことわざDE心理学のすすめ－現代日本社会で知的大人となるためには…』人間の科学社、2008年7月、全64頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0件）

○取得状況（計 0件）

〔その他〕